

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：あさか環境市民会議

26A-32

代表者：会長 松永 健司

URL : <https://asaka-kankyo.1web.jp/outline.html>

1. 活動が必要とされた状況

朝霞市は武蔵野台地の端に位置し、市の北東部は新河岸川、荒川が流れる荒川低地。市の中心を黒目川が武蔵野台地を深く削り、新河岸川に合流します。武蔵野台地の雑木林と川の恵みのある豊かな土地です。

急速な宅地開発が進み、1970年代から2000年にかけて人口は倍増して10万人を超えました。その頃、市内にある林を残す活動が盛んになりました。残された雑木林は主に武蔵野台地の崖にあり、湧水もある場所です。生活環境の変化で放置された斜面林は竹や笹等で暗く荒れていました。当会は2002年に設立され、特別保全緑地に指定された3カ所の斜面林およそ1.5㍍の広さで活動しています。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

参加人数は、毎回10～16人、今年度は昨年4月から今年1月までで延べ315人が参加しました。

竹林の間伐伐採、笹や下草刈りから始まり、里山の再生を行っています。竹の伐採はもちろんです、ケヤキやアカメガシワ、ムクノキからシュロまで、毎月しっかりと手入れしないと、あっという間に先が見通せない有様です。



3. 活動の成果



活動によって明るく手入れされた雑木林は、近所の方々の散歩や憩いの場として利用され、感謝の言葉を受けています。他の2カ所の斜面林においては、湧水の池があり、安全面の配慮から通常の立入は制限されていますが、春の野草観察会では希少植物が鑑賞できます。秋のモミジ鑑賞会では、会員以外の参加者から感嘆の声と好評を得ています。

タケノコ駆除作業が、竹林整備と自然の恵み享受につながり、それに感銘して新規会員が入会と、一石三鳥になっています。

4. 今後に残された課題

(1) 斜面林の遷移

木が大きくなり様々な問題が起きています。また、ナラ枯れの問題や植物相の変化が起きています。今後はナラガレ伐採で林床が明るくなり、さらなる変化を注視します。

(2) 隣接地の宅地化

隣接して新築住宅が建ち、日照や風通し、落ち葉問題が発生しています。声掛けや挨拶などを行っています。今後は、より積極的な地域交流が解決策か？模索中です。

(3) 会員の高齢化退会と新規会員の微増

会員の減少により、森の生育や変化に活動が追いついていない状況にあります。観察会や勉強会に注力をして、会員増大の改善策になるか？思案中です。